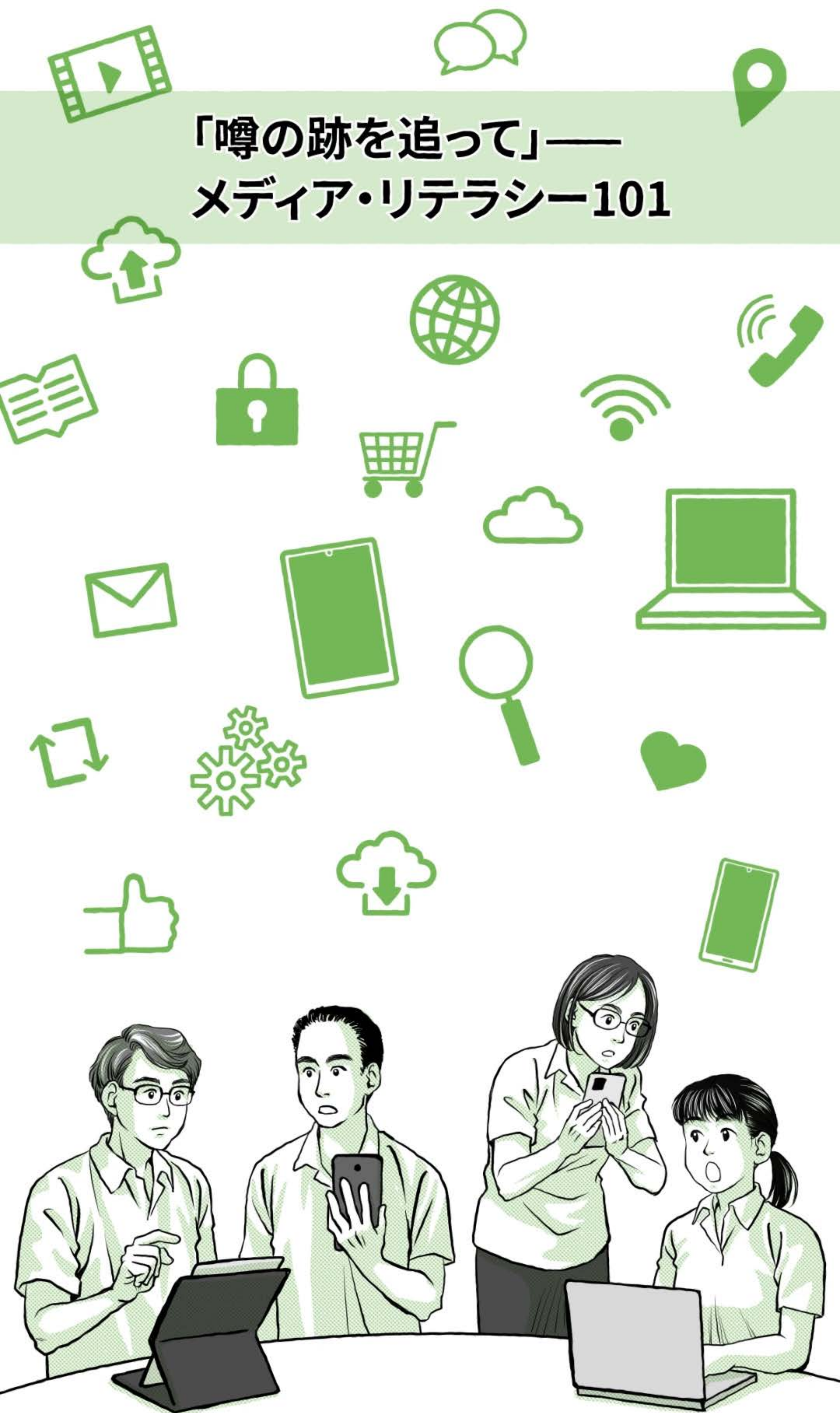


「噂の跡を追って」—— メディア・リテラシー101



2010年。元CNN記者の鍛冶本氏が、メディア・リテラシーについて教鞭をとるべく香港大学に着任したばかりのことです。



すぐに同氏はある問題に気づきます。

私の国でフェイク・ニュースを見かけることはまれです。デマだと思われる情報は政府に削除されますから…

中国出身の学生



ベトナム出身の学生

ぼくの国の法律では、メディアは政治的安定を守るために政府の代弁者の役割を果たすべきだとされています

こちらの状況を欧米と比較することはできない。

「ジャーナリズム」やその目的に対する考え方がまったく違うのだから…

鍛冶本 正人
ジャーナリズムの教授

Media
Literacy

ほとんどの教材は、アメリカなど欧米の民主主義国の報道機関に基づくものでした。

メディアのシステムや報道の自由度は国によって異なります。



そして、「メディア」の意味も 変わりました。今や多くの人のにとって、ソーシャル・プラットフォームが主な情報源となっています。

アジア諸国の関係者の声を聞き、カリキュラムを見直さなければ…

鍛治本氏は、現地の状況に合ったメディア・リテラシー教材を開発するため、アジア各国を回り始めました



2019年、その中で出会った人々とともに、ニュースと情報分野の教育者によるネットワーク「ANNIE Asia」を立ち上げます。

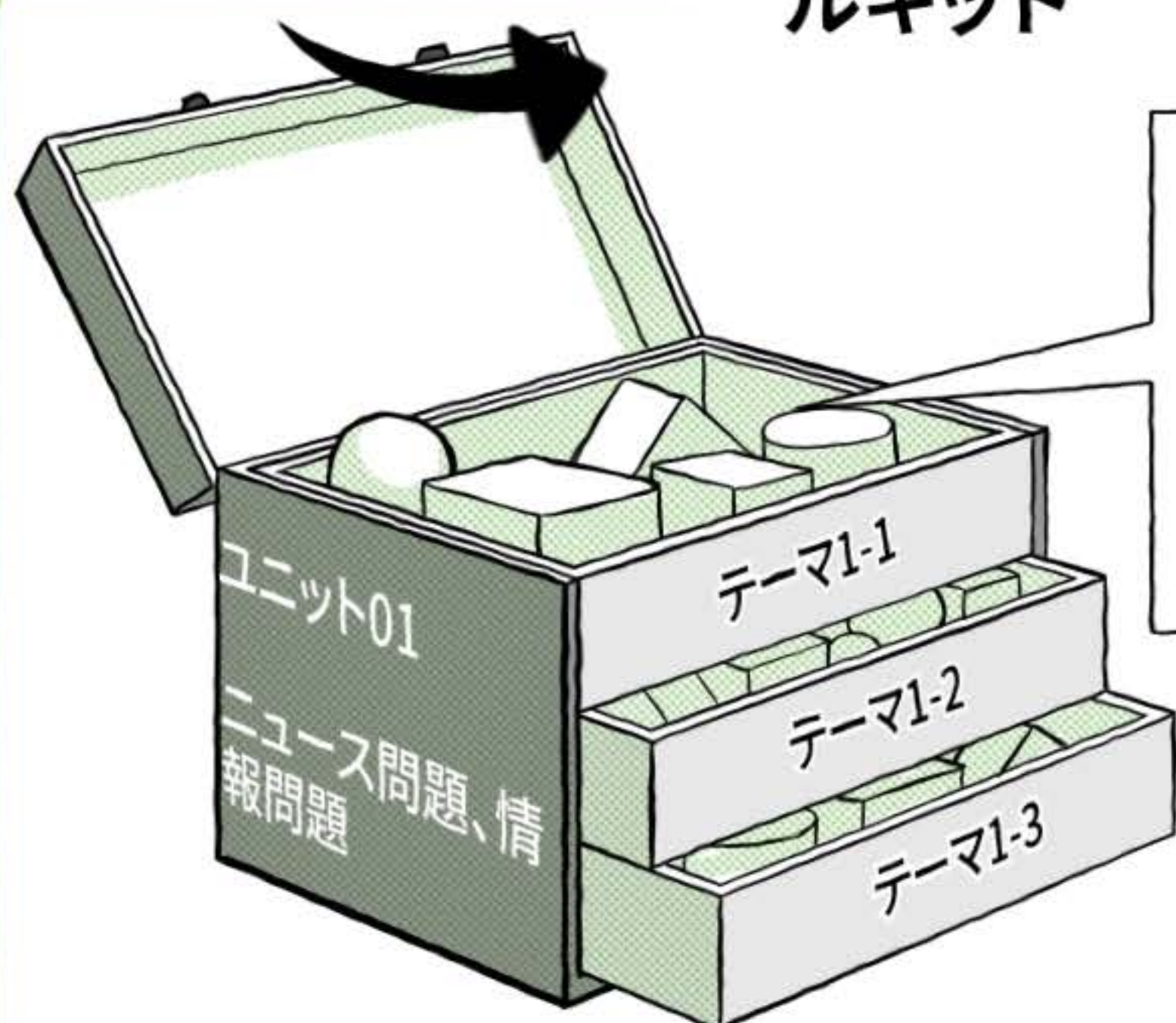
設立以来、ANNIEは多くの国でワークショップを開催してきました。



現地で得られたデータやアイデアは、新たな教材の作成に活かされています。

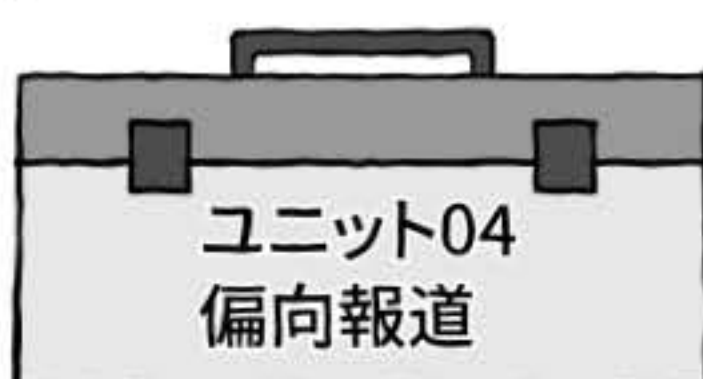


ANNIEのツールキット

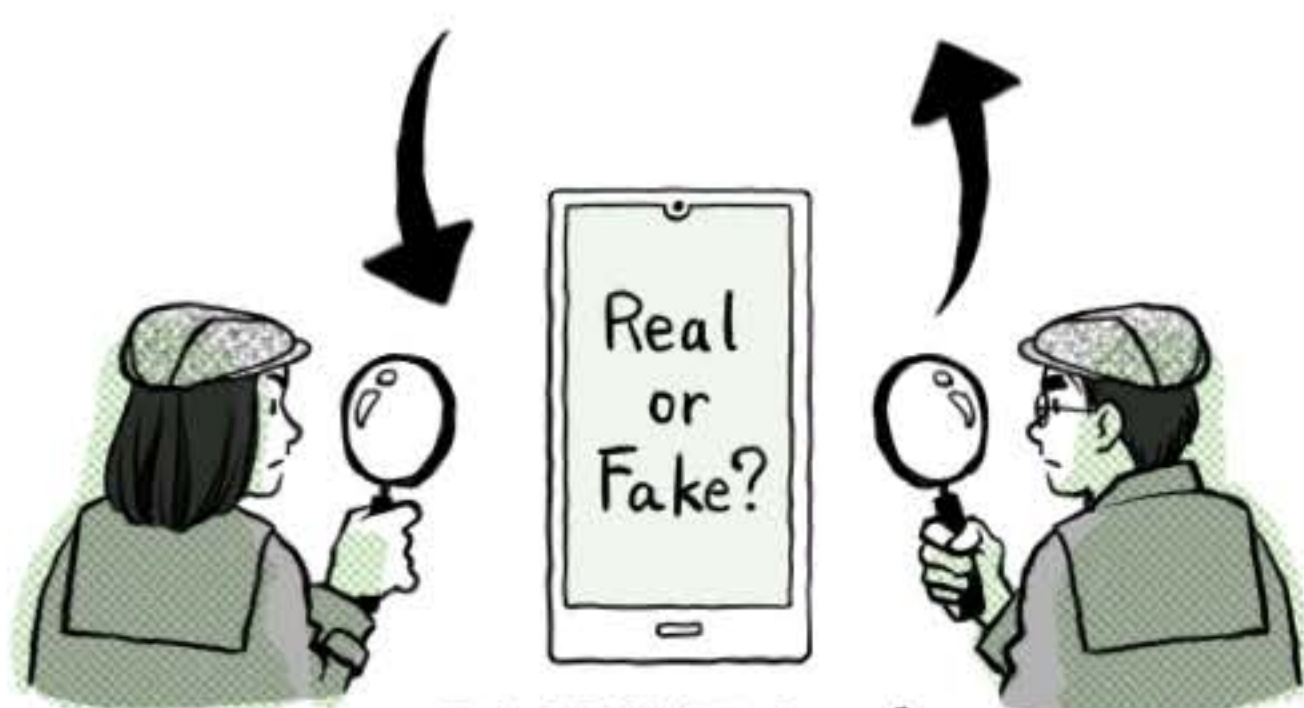


授業計画

- 教室での活動
- 課題
- 評価基準
- ツールリスト



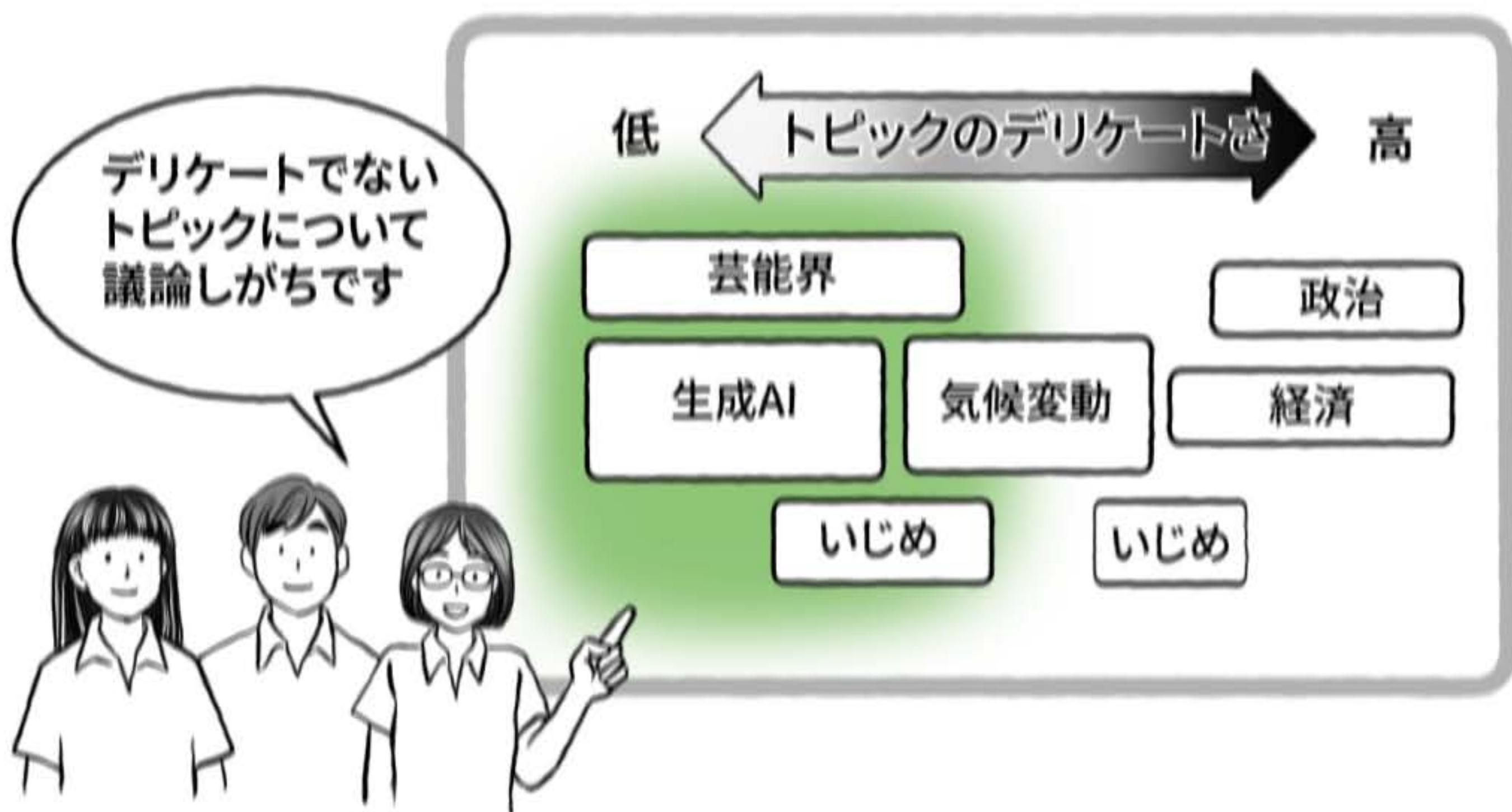
また、香港大学のファクトチェック・ニュースルーム・プロジェクトとして「Annie Lab」も開設しました。



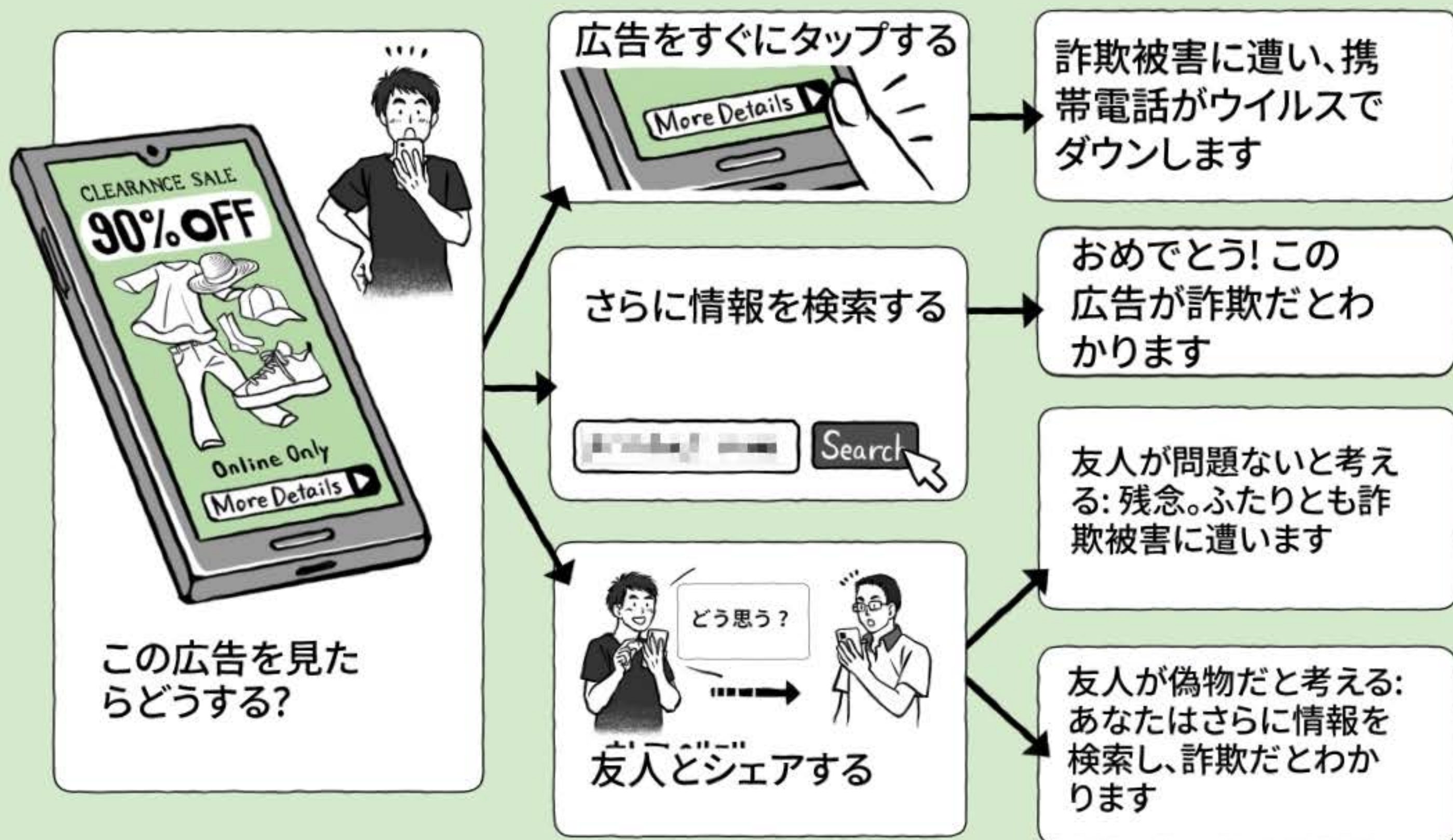
ANNIE Lab

権威主義の政治体制で問題となるのは、授業で何を教えるかではなく、何を教えられないかです。

例えば、特定のトピックについて4ページの雑誌をつくる課題を学生に出すと、芸能界における女性の性的対象化など、政治的にデリケートでないトピックが選ばれる傾向にあります。



リアルタイム・シミュレーションは、人々がネット上の情報を吟味するようになる手助けになります。



「ソーシャル・メディアの誓い」は、10日間ソーシャル・メディアの使い方を変えてみる実験です。



ソーシャル・メディアに対する習慣が変われば、もっとバランスの取れたITの利用が可能になります。

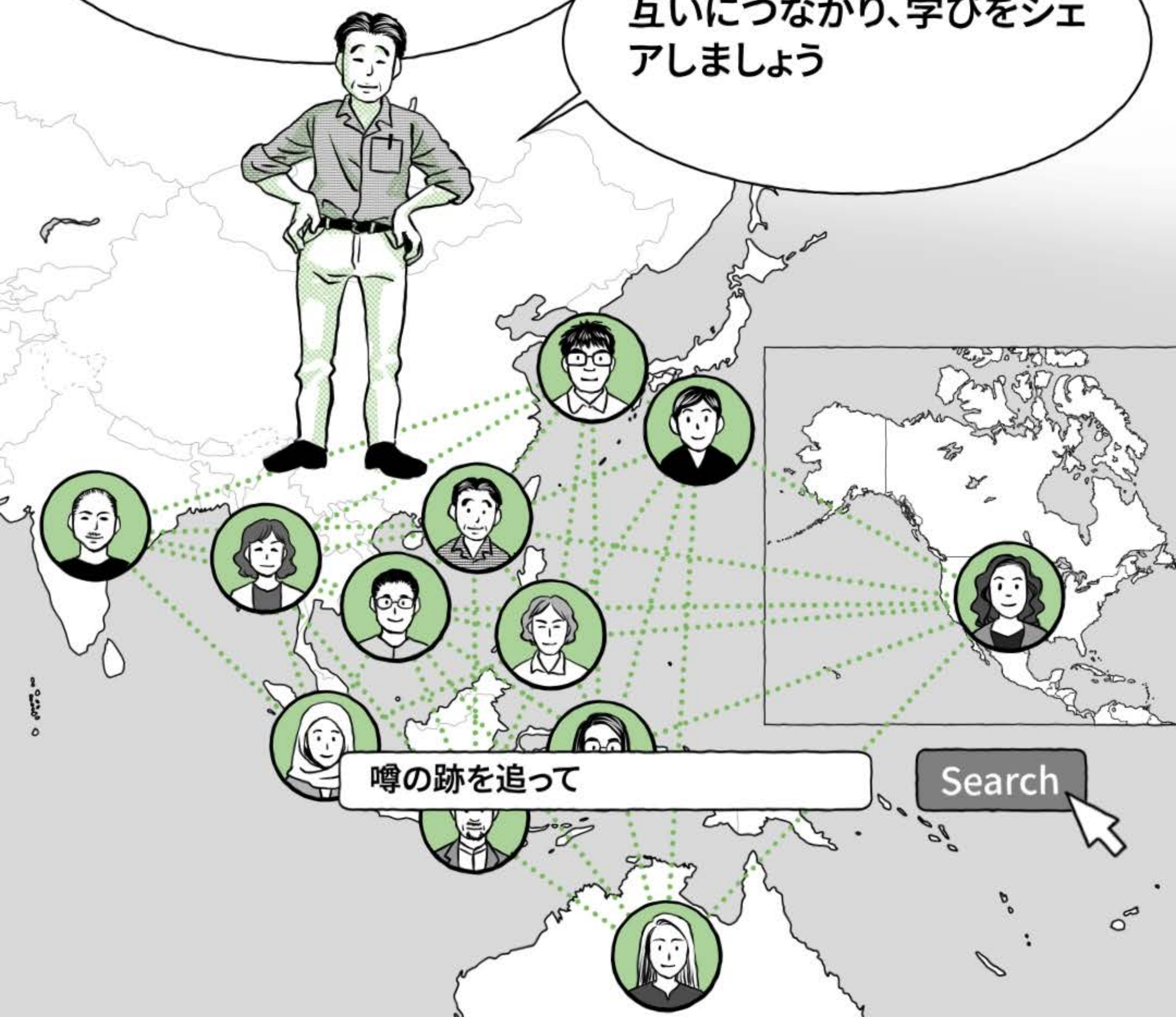
こうした演習に加えて、教科書や従来型の教材も授業で重要な役割を果たしています。

しかし、非常に多くの要因が意思決定に影響するため、メディア・リテラシー教育の効果を測るのはまだ難しい状況です。



教育は長期的な取り組みです。すぐに効果が見られないからというだけで、やめるわけにはいきません

互いにつながり、学びをシェアしましょう





**GOETHE
INSTITUT**